

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人総持学園

(2) 大学名

鶴見大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒230-8501

神奈川県横浜市鶴見区鶴見2丁目1番3号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(木ガワ エイゲン) 乙川 暎元 (平成23年7月)		
学長	(木ヤマ タカシ) 大山 喬史 (平成29年4月)		
研究科長	(カガワ ジュンジ) 加川 順治 (平成29年4月)		
専攻主任	(ツノダ ヒロキ) 角田 裕之 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
文学研究科 ドキュメンテーション専攻 （博士前期課程） 修士（文学）	文学関係	年 2	人 3	年次 人	人 6	基礎となる学部等 文学部 ドキュメンテーション学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 3 (-) [-]	人	人 3 (-) [-]	人	0.83 倍	-	
志願者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	2 (-) [-]	- (-) [-]	3 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	0.66		1.00				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	2 [-]	- [-]	3 [-]	- [-]	
2年次	- [-] (-)	- [-] (-)	2 [-] (-)	- [-] (-)	
計	2 [-] (-)		5 [-] (-)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	2人	0人	平成30年度	0人	0人	
令和元年度	5人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{5} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<文学研究科ドキュメンテーション専攻（博士前期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	ドキュメンテーション基礎	1通	8			6	1					
	小計(1科目)	-	8	0	0	6	1	0	0	0	0	
研究指導科目	研究論文演習Ⅰ【隔年】	1・2通		4		6	1					
	研究論文演習Ⅱ【隔年】	1・2通		4		6	1					
	小計(2科目)	-	0	8	0	6	1	0	0	0	0	
課題型科目群	課題研究Ⅰ【隔年】	1・2通		4		6	1					
	課題研究Ⅱ【隔年】	1・2通		4		6	1					
	実地研究Ⅰ【隔年】	1・2通		4		6	1					
	実地研究Ⅱ【隔年】	1・2通		4		6	1					
	小計(4科目)	-	0	16	0	6	1	0	0	0	0	
個別領域科目群【A群】	図書館情報学研究Ⅰa【隔年】	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究Ⅰb【隔年】	1・2後		2		1						
	図書館情報学研究Ⅰc【隔年】	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究Ⅰd【隔年】	1・2後		2		1						
	図書館情報学研究Ⅱa【隔年】	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究Ⅱb【隔年】	1・2後		2		1						
	図書館情報学研究Ⅱc【隔年】	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究Ⅱd【隔年】	1・2後		2		1						
	人文情報学研究Ⅰa【隔年】	1・2前		2		1						
	人文情報学研究Ⅰb【隔年】	1・2後		2		1						
	人文情報学研究Ⅰc【隔年】	1・2前		2		1						
	人文情報学研究Ⅰd【隔年】	1・2後		2		1						

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	ドキュメンテーション基礎	1通	8			6	1					
	小計(1科目)	-	8	0	0	6	1	0	0	0	0	
研究指導科目	研究論文演習Ⅱ	1・2通		4		6	1					
	小計(1科目)	-	0	4	0	6	1	0	0	0	0	
課題型科目群	課題研究Ⅱ(未開講)	1・2通		4		6	1					
	実地研究Ⅱ(未開講)	1・2通		4		6	1					
	小計(2科目)	-	0	8	0	6	1	0	0	0	0	
個別領域科目群【A群】	図書館情報学研究Ⅰc	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究Ⅰd	1・2後		2		1						
	図書館情報学研究Ⅱc	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究Ⅱd	1・2後		2		1						
	人文情報学研究Ⅰc(未開講)	1・2前		2		1						
	人文情報学研究Ⅰd(未開講)	1・2後		2		1						

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
個別領域科目群【A群】	人文情報学研究Ⅱa【隔年】	1・2前	2		1							
	人文情報学研究Ⅱb【隔年】	1・2後	2		1							
	人文情報学研究Ⅱc【隔年】	1・2前	2		1							
	人文情報学研究Ⅱd【隔年】	1・2後	2		1							
	人文情報学研究Ⅲa【隔年】	1・2前	2		1							
	人文情報学研究Ⅲb【隔年】	1・2後	2		1							
	人文情報学研究Ⅲc【隔年】	1・2前	2		1							
	人文情報学研究Ⅲd【隔年】	1・2後	2		1							
	書誌学研究Ⅰa【隔年】	1・2前	2		1							
	書誌学研究Ⅰb【隔年】	1・2後	2		1							
	書誌学研究Ⅰc【隔年】	1・2前	2		1							
	書誌学研究Ⅰd【隔年】	1・2後	2		1							
	書誌学研究Ⅱa【隔年】	1・2前	2			1						
	書誌学研究Ⅱb【隔年】	1・2後	2			1						
	書誌学研究Ⅱc【隔年】	1・2前	2			1						
書誌学研究Ⅱd【隔年】	1・2後	2			1							
個別領域科目群【B群】	ドキュメンテーション研究Ⅰ【隔年】	1・2通	2								1	
	ドキュメンテーション研究Ⅱ【隔年】	1・2通	2								1	
小計(30科目)		-	0	60	0	6	1	0	0	0	0	
合計(37科目)		-	0	84	0	6	1	0	0	0	0	
卒業要件及び履修方法												
必修科目8単位、必修選択科目4単以上、選択科目12単位以上、合計で32単位以上修得すること。 1年次にドキュメンテーション基礎を履修し、ドキュメンテーションの知識を確実なものにする。また1年次に個別領域科目群A群の科目を履修し、できる限り学際領域であるドキュメンテーションの各種課題に対して広く対応できる知識を身に付ける。また毎年学外からの研究者を招聘する個別領域科目群B群の授業を積極的に履修し、ドキュメンテーション領域の指導者として必要となる知識を身に付ける。社会人学生は、個別領域科目群の代わりに課題研究科目群の授業を選択することが可能であるが、その際には研究計画を提出し、専攻において審査の上、承認を得た場合にのみ履修が可能となる。学生は毎年次研究指導科目を履修することが求められ、学生・教員全員が参加する授業内で発表・討論に参加し指導を受けなければならない。												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
個別領域科目群【A群】	人文情報学研究Ⅱc (未開講)	1・2前	2		1							
	人文情報学研究Ⅱd (未開講)	1・2後	2		1							
	人文情報学研究Ⅲc	1・2前	2		1							
	人文情報学研究Ⅲd	1・2後	2		1							
	書誌学研究Ⅰc	1・2前	2		1							
	書誌学研究Ⅰd	1・2後	2		1							
	書誌学研究Ⅱc	1・2前	2			1						
	書誌学研究Ⅱd	1・2後	2			1						
	個別領域科目群【B群】	ドキュメンテーション研究Ⅱ	1・2通	2								1
		小計(15科目)	-	0	30	0	6	1	0	0	0	0
	合計(19科目)		-	0	42	0	6	1	0	0	0	0
	卒業要件及び履修方法											
	必修科目8単位、必修選択科目4単以上、選択科目12単位以上、合計で32単位以上修得すること。 1年次にドキュメンテーション基礎を履修し、ドキュメンテーションの知識を確実なものにする。また1年次に個別領域科目群A群の科目を履修し、できる限り学際領域であるドキュメンテーションの各種課題に対して広く対応できる知識を身に付ける。また毎年学外からの研究者を招聘する個別領域科目群B群の授業を積極的に履修し、ドキュメンテーション領域の指導者として必要となる知識を身に付ける。社会人学生は、個別領域科目群の代わりに課題研究科目群の授業を選択することが可能であるが、その際には研究計画を提出し、専攻において審査の上、承認を得た場合にのみ履修が可能となる。学生は毎年次研究指導科目を履修することが求められ、学生・教員全員が参加する授業内で発表・討論に参加し指導を受けなければならない。											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目	ドキュメンテーション基礎	1通	8			6	1					
	小計(1科目)	-	8	0	0	6	1	0	0	0	0	0
研究指導科目	研究論文演習 I	1・2通		4		6	1					
	小計(1科目)	-	0	4	0	6	1	0	0	0	0	0
課題型科目群	課題研究 I	1・2通		4		6	1					
	実地研究 I (未開講)	1・2通		4		6	1					
	小計(2科目)	-	0	8	0	6	1	0	0	0	0	0
個別領域科目群 〔A群〕	図書館情報学研究 I a (未開講)	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究 I b (未開講)	1・2後		2		1						
	図書館情報学研究 II a (未開講)	1・2前		2		1						
	図書館情報学研究 II b (未開講)	1・2後		2		1						
	人文情報学研究 I a (未開講)	1・2前		2		1						
	人文情報学研究 I b (未開講)	1・2後		2		1						
	人文情報学研究 II a	1・2前		2		1						
	人文情報学研究 II b	1・2後		2		1						
	人文情報学研究 III a	1・2前		2		1						
	人文情報学研究 III b	1・2後		2		1						

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
個別領域科目群 〔A群〕	書誌学研究 I a (未開講)	1・2前		2		1						
	書誌学研究 I b (未開講)	1・2後		2		1						
	書誌学研究 II a (未開講)	1・2前		2			1					
	書誌学研究 II b (未開講)	1・2後		2			1					
個別領域科目群 〔B群〕	ドキュメンテーション研究 I	1・2通		2								1
小計(15科目)		-	0	30	0	6	1	0	0	0	0	0
合計(19科目)		-	8	42	0	6	1	0	0	0	0	0
卒業要件及び履修方法												
<p>必修科目8単位、必修選択科目4単以上、選択科目12単位以上、合計で32単位以上修得すること。 1年次にドキュメンテーション基礎を履修し、ドキュメンテーションの知識を確実なものにする。また1年次に個別領域科目群A群の科目を履修し、できる限り学際領域であるドキュメンテーションの各種課題に対して広く対応できる知識を身に付ける。また毎年学外からの研究者を招聘する個別領域科目群B群の授業を積極的に履修し、ドキュメンテーション領域の指導者として必要となる知識を身に付ける。社会人学生は、個別領域科目群の代わりに課題研究科目群の授業を選択することが可能であるが、その際には研究計画を提出し、専攻において審査の上、承認を得た場合のみ履修が可能となる。学生は毎年次研究指導科目を履修することが求められ、学生・教員全員が参加する授業内で発表・討論に参加し指導を受けなければならない。</p>												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員の就任辞退の理由により、「ドキュメンテーション基礎」「研究論文演習Ⅰ」「課題研究Ⅰ」「実地研究Ⅰ」「書誌学研究Ⅱa」「書誌学研究Ⅱb」の専任教員等の配置を「准教授 久保木 秀夫」から「准教授 加藤弓枝」に変更。

【令和元年度】

・専任教員の就任辞退の理由により、「研究論文演習Ⅱ」「課題研究Ⅱ」「実地研究Ⅱ」「書誌学研究Ⅱc」「書誌学研究Ⅱd」の専任教員等の配置を「准教授 久保木 秀夫」から「准教授 加藤弓枝」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
1 科目	36 科目	0 科目	37 科目	1 科目 [0]	36 科目 [0]	0 科目 [0]	37 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{37} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	鶴見大学短期大学部 (必要面積8,500㎡) と共用 借用面積： 58,871.7㎡ 借用期間： 学園の存する限り			
	校舎敷地	0㎡	76,275㎡	0㎡	76,275㎡				
	運動場用地	0㎡	29,914㎡	0㎡	29,914㎡				
	小 計	0㎡	106,189㎡	0㎡	106,189㎡				
	そ の 他	0㎡	17,751㎡	0㎡	17,751㎡				
	合 計	0㎡	123,940㎡	0㎡	123,940㎡				
(2) 校 舎		専 用 24,421.9㎡ (24,421.9㎡)	共 用 24,670.2㎡ (24,670.2㎡)	共用する他の学校等の専用 4,262.9㎡ (4,262.9㎡)	計 53,355㎡ (53,355㎡)	鶴見大学短期大学部 (必要面積6,850㎡) と共用			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	13 室	17 室	0 室	3 室 (補助職員 2人)	4 室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	文学研究科 ドキュメンテーション専攻			7 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分 842,664 図書830,710 836,627 冊 [222,649 221,765 222,767] 13,325 学術雑誌 13,280 13,300冊 [9,871 3,873] 3,919 電子ジャーナル 3,414 3,772 [2,163 2,453 2,544] 新規購入又は契約数の増加(元) 新規購入又は契約数の増加(30)	
	文学研究科 ドキュメンテーション専攻	72,000 [10,550] (70,829 [10,419]) (-69,958 [10,414]) (-69,000 [10,400])	1,285 [804] 1,225 [750] 1,204 [725] (1,285 [804]) (-1,225 [750]) (-1,204 [725])	500 [500] 442 [442] 421 [421] (500 [500]) (-442 [442]) (421 [421])	950 (925) (920)	パソコン共用 48台 (パソコン共用 56台) (パソコン共用 48台)	0 (0)		
	計	72,000 [10,550] (70,829 [10,419]) (-69,958 [10,414]) (-69,000 [10,400])	1,285 [804] 1,225 [750] 1,204 [725] (1,285 [804]) (-1,225 [750]) (-1,204 [725])	500 [500] 442 [442] 421 [421] (500 [500]) (-442 [442]) (421 [421])	950 (925) (920)	パソコン共用 48台 (パソコン共用 56台) (パソコン共用 48台)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 座席数の増加(元)		
	7,366㎡		669 688 席		75万 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	6,182㎡		-						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究科単位での算出不能なため、学部との合計
		教員1人当たり研究費等	429千円	429千円	図書購入費	0千円	1,500千円	1,500千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,030千円	670千円	670千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			その他の帰属収入による						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	鶴見大学大学院									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
文学研究科 (博士前期課程)	2	16	-	32	-	0.43	-	平成 1年度	神奈川県横浜市 鶴見区鶴見2丁目 1番3号	
日本文学専攻 (博士前期課程)	2	5	-	10	修士 (文学)	0.40	-	平成 1年度	同上	
英米文学専攻 (博士前期課程)	2	5	-	10	修士 (文学)	0.00	-	平成 1年度	同上	
文化財学専攻 (博士前期課程)	2	3	-	6	修士 (文化財 学)	0.83	-	平成 14年度	同上	
ドキュメンテーション専攻 (博士前期課程)	2	3	-	6	修士 (文学)	0.83	-	平成 30年度	同上	
文学研究科 (博士後期課程)	3	8	-	24	-	0.12	-	平成 6年度	同上	
日本文学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文学)	0.33	-	平成 6年度	同上	
英米文学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文学)	0.00	-	平成 6年度	同上	
文化財学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文化財 学)	0.16	-	平成 14年度	同上	
ドキュメンテーション専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文学)	0.00	-	平成 30年度	同上	
歯学研究科	4	18	-	72	-	0.45	-	昭和 52年度	同上	
歯学専攻 (博士課程)	4	18	-	72	博士 (歯学)	0.45	-	昭和 52年度	同上	
大学院全体	-	42	-	128	-	-	-	-	-	

大学の名称	鶴見大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
文学部	4	300	-	1200	-	1.23	-	昭和 38年度	神奈川県横浜市 鶴見区鶴見2丁目 1番3号	
日本文学科	4	90	-	360	学士 (文学)	1.32	-	昭和 38年度	同上	
英語英米文学科	4	90	-	360	学士 (文学)	1.21	-	昭和 38年度	同上	
文化財学科	4	60	-	240	学士 (文学)	1.12	-	平成 10年度	同上	
ドキュメンテーション学科	4	60	-	240	学士 (文学)	1.23	-	平成 16年度	同上	
歯学部	6	120	-	720	-	0.76	-	昭和 45年度	同上	
歯学科	6	120	-	720	学士 (歯学)	0.76	-	昭和 45年度	同上	
大学全体	-	420	-	1920	-	-	-	-	-	
大学の名称	鶴見大学短期大学部									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
保育科	2	200	-	400	短期大学士 (保育学)	0.88	-	昭和 37年度	神奈川県横浜市 鶴見区鶴見2丁目 1番3号	
歯科衛生科	3	150	-	450	短期大学士 (歯科衛生学)	0.97	-	昭和 37年度	同上	
大学全体	-	350	-	850	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<文学研究科ドキュメンテーション専攻（博士前期課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専任	教授 (専攻主任)	角田 裕之 (61) <平成30年4月> 博士(図書館情報学)	専任	教授 (専攻主任)	角田 裕之 (61) <平成30年4月> 博士(図書館情報学)	専任	教授 (専攻主任)	角田 裕之 (62) <平成30年4月> 博士(図書館情報学)
		ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 図書館情報学研究Ⅰa【隔年】 図書館情報学研究Ⅰb【隔年】 図書館情報学研究Ⅰc【隔年】 図書館情報学研究Ⅰd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 図書館情報学研究Ⅰa【隔年】 図書館情報学研究Ⅰb【隔年】 図書館情報学研究Ⅰc【隔年】 図書館情報学研究Ⅰd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 図書館情報学研究Ⅰa【隔年】 図書館情報学研究Ⅰb【隔年】 図書館情報学研究Ⅰc【隔年】 図書館情報学研究Ⅰd【隔年】
専任	教授	大矢 一志 (52) <平成30年4月> 博士(学術)	専任	教授	大矢 一志 (52) <平成30年4月> 博士(学術)	専任	教授	大矢 一志 (53) <平成30年4月> 博士(学術)
		ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅰa【隔年】 人文情報学研究Ⅰb【隔年】 人文情報学研究Ⅰc【隔年】 人文情報学研究Ⅰd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅰa【隔年】 人文情報学研究Ⅰb【隔年】 人文情報学研究Ⅰc【隔年】 人文情報学研究Ⅰd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅰa【隔年】 人文情報学研究Ⅰb【隔年】 人文情報学研究Ⅰc【隔年】 人文情報学研究Ⅰd【隔年】
専任	教授	伊倉 史人 (51) <平成30年4月> 修士(文学)※	専任	教授	伊倉 史人 (51) <平成30年4月> 修士(文学)※	専任	教授	伊倉 史人 (52) <平成30年4月> 修士(文学)※
		ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 書誌学研究Ⅰa【隔年】 書誌学研究Ⅰb【隔年】 書誌学研究Ⅰc【隔年】 書誌学研究Ⅰd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 書誌学研究Ⅰa【隔年】 書誌学研究Ⅰb【隔年】 書誌学研究Ⅰc【隔年】 書誌学研究Ⅰd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 書誌学研究Ⅰa【隔年】 書誌学研究Ⅰb【隔年】 書誌学研究Ⅰc【隔年】 書誌学研究Ⅰd【隔年】
専任	教授	田辺 良則 (56) <平成30年4月> 博士(情報理工学)	専任	教授	田辺 良則 (56) <平成30年4月> 博士(情報理工学)	専任	教授	田辺 良則 (57) <平成30年4月> 博士(情報理工学)
		ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅱa【隔年】 人文情報学研究Ⅱb【隔年】 人文情報学研究Ⅱc【隔年】 人文情報学研究Ⅱd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅱa【隔年】 人文情報学研究Ⅱb【隔年】 人文情報学研究Ⅱc【隔年】 人文情報学研究Ⅱd【隔年】			ドキュメンテーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅱa【隔年】 人文情報学研究Ⅱb【隔年】 人文情報学研究Ⅱc【隔年】 人文情報学研究Ⅱd【隔年】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	元木 章博 (50) <平成30年4月> 修士(教育学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅱa【隔年】 人文情報学研究Ⅱb【隔年】 人文情報学研究Ⅱc【隔年】 人文情報学研究Ⅱd【隔年】
専任	教授	河西 由美子 (55) <平成30年4月> 博士(学際情報学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 図書館情報学研究Ⅱa【隔年】 図書館情報学研究Ⅱb【隔年】 図書館情報学研究Ⅱc【隔年】 図書館情報学研究Ⅱd【隔年】
専任	准教授	久保木 秀夫 (46) <平成30年4月> 博士(文学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 図書館情報学研究Ⅱa【隔年】 図書館情報学研究Ⅱb【隔年】 図書館情報学研究Ⅱc【隔年】 図書館情報学研究Ⅱd【隔年】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	元木 章博 (50) <平成30年4月> 修士(教育学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅱa【隔年】 人文情報学研究Ⅱb【隔年】 人文情報学研究Ⅱc【隔年】 人文情報学研究Ⅱd【隔年】
専任	教授	河西 由美子 (55) <平成30年4月> 博士(学際情報学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 図書館情報学研究Ⅱa【隔年】 図書館情報学研究Ⅱb【隔年】 図書館情報学研究Ⅱc【隔年】 図書館情報学研究Ⅱd【隔年】
専任	准教授	加藤弓枝 (43) <平成30年4月> 博士(文学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 書誌学研究Ⅱa【隔年】 書誌学研究Ⅱb【隔年】 書誌学研究Ⅱc【隔年】 書誌学研究Ⅱd【隔年】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	元木 章博 (51) <平成30年4月> 修士(教育学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 人文情報学研究Ⅱa【隔年】 人文情報学研究Ⅱb【隔年】 人文情報学研究Ⅱc【隔年】 人文情報学研究Ⅱd【隔年】
専任	教授	河西 由美子 (56) <平成30年4月> 博士(学際情報学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 図書館情報学研究Ⅱa【隔年】 図書館情報学研究Ⅱb【隔年】 図書館情報学研究Ⅱc【隔年】 図書館情報学研究Ⅱd【隔年】
専任	准教授	加藤弓枝 (44) <平成30年4月> 博士(文学)
		トキメントーション基礎 ※ 研究論文演習Ⅰ【隔年】 研究論文演習Ⅱ【隔年】 課題研究Ⅰ【隔年】 課題研究Ⅱ【隔年】 実地研究Ⅰ【隔年】 実地研究Ⅱ【隔年】 書誌学研究Ⅱa【隔年】 書誌学研究Ⅱb【隔年】 書誌学研究Ⅱc【隔年】 書誌学研究Ⅱd【隔年】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	湯浅 能史 (53) <平成30年4月> 博士(理学)
		ト・コミュニケーション研究Ⅰ【隔年】
兼任	講師	酒井 由紀子 (57) <平成30年4月> 博士(図書館・情報学)
		ト・コミュニケーション研究Ⅱ【隔年】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	湯浅 能史 (53) <平成30年4月> 博士(理学)
		ト・コミュニケーション研究Ⅰ【隔年】
兼任	講師	長谷川 幸代 (37) <平成30年4月> 博士(社会情報学)
		ト・コミュニケーション研究Ⅱ【隔年】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	湯浅 能史 (54) <平成30年4月> 博士(理学)
		ト・コミュニケーション研究Ⅰ【隔年】
兼任	講師	長谷川 幸代 (38) <平成30年4月> 博士(社会情報学)
		ト・コミュニケーション研究Ⅱ【隔年】

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼担教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼担、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・「准教授 久保木秀夫」就任辞退により、「准教授 加藤弓枝」に変更。
- ・「非常勤講師 酒井由紀子」(兼任)就任辞退により、「非常勤講師 長谷川幸代」(兼任)に変更。

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査 (AC教員審査) を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書 (AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度 (平成29年度開設であれば平成28年度) の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研 究指導補助教員数
2	2	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
6	1	0	0	7	6	1	0	0	7
(6)	(1)	(0)	(0)	(7)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
7	0	0			7	0	0		
(7)	(0)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
6	1	0	0	7	6	1	0	0	7
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
7	0	0			7	0	0		
[0]	[0]	[0]			[0]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
67	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 []内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{7}{7} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{7} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	久保木 秀夫	H30.4	必修	ドキュメンテーション基礎 ※	①	他大学に就任のため、専任教員就任を辞退(30)			
				選択	研究論文演習Ⅰ【隔年】	①				
				選択	研究論文演習Ⅱ【隔年】	①				
				選択	課題研究Ⅰ【隔年】	①				
				選択	課題研究Ⅱ【隔年】	①				
				選択	実地研究Ⅰ【隔年】	①				
				選択	実地研究Ⅱ【隔年】	①				
				選択	書誌学研究Ⅱa【隔年】	①				
				選択	書誌学研究Ⅱb【隔年】	①				
				選択	書誌学研究Ⅱc【隔年】	①				
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
1	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	10	科目	選択	10	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	11	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
1	人	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	10	科目	選択	10	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	11	科目	計	0	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{7} = 14.28 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成30年度及び令和元年度実施科目については同一分野担当教員を新たに採用するとともに、学生に配布している「履修要項」およびWeb上のシラバスで周知を行った。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画		
設 置 時 (平成30年)	文学部日本文学科の 入学定員超過の是正に 努めること。	留意事項	履行中	<p>平成26年度の単年度の入学定員超過率は1.01であったが、平成27年度より、前年度の入学手続予想を大きく上回る入学者が続いており、単年度の入学定員超過率はそれぞれ1.61(平成27年度)、1.41(平成28年度)、1.47(平成29年度)であった。</p> <p>平成29年12月1日付で留意事項に係る通知を受領した後の1月以降の平成30年度入試では、募集定員に対する入学定員超過率は0.70であり、前年度の1月以降の入試における募集定員に対する入学定員超過率0.79よりも減少した。</p> <p>これにより、平成30年度における単年度の入学定員超過率は1.32と、平成29年度に比べて減少したものの、平成27年度から平成30年度までの4年間における平均入学定員超過率は1.45となった。</p>	<p>社会的な需要等を考慮して、平成31年度(令和元年度)入試のあり方を十分に検討し、更なる定員超過の是正に努める。</p>
設置計画履行状況調査時 (平成30年)	鶴見大学の既設学部等(文学部日本文学科)の入学定員超過の改善に努めること。	改善意見	履行中	<p>鶴見大学文学部日本文学科の単年度の入学定員超過率はそれぞれ1.41(平成28年度)、1.47(平成29年度)、1.32(平成30年度)、1.11(平成31年度(令和元年度))であった。</p> <p>平成31年度(令和元年度)入試においては、一般入試における合格者数の抑制により、単年度の入学定員超過率は1.11に減少した。</p> <p>4年間の平均入学定員超過率は、平成30年度報告時の1.45から1.32に減少した。</p>	<p>令和2年度入試のあり方を十分に検討し、引き続き入学定員超過の改善に努める。</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<文学研究科ドキュメンテーション専攻（博士前期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 教育内容等の改善のために組織した「文学研究科FD委員会」（別紙1）のもと、授業改善を図っている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回文学研究科FD委員会 平成30年5月10日 12:20～（委員 出席9人、欠席0人） ・ 第2回文学研究科FD委員会 平成30年5月30日 16:30～（委員 出席9人、欠席0人） <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回文学研究科FD委員会 <ol style="list-style-type: none"> 1. 実践・情報報告会開催の件 2. 今後のFD活動の件 3. その他 ・ 第2回文学研究科FD委員会 <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業評価アンケートの件 2. その他 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 授業方法についての講演会</p> <p>b 実施方法 実践・情報報告会の実施</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回 文学部・文学研究科 実践・情報報告会 （出席21人、欠席19人） * 専任教員出席者のうち、文学研究科委員18人58.1%、ドキュメンテーション専攻委員4人57.1% 平成30年6月14日（木）1号館402教室 16時30分～18時 講師：ケビン ミラー（英語英米文学科 准教授） 1. Nine Things I Do(for Better or Worse) 「足りないひと味に9つの提案」 2. アクティブ ラーニング ワークショップ 3. 質疑応答
--

- ・第2回 文学部・文学研究科 実践・情報報告会
(出席24人、欠席16人)
* 専任教員出席者のうち、文学研究科委員18人58.1%、ドキュメンテーション専攻委員5人71.4%
平成30年11月29日(木) 記念館第1講堂 16時30分～18時
講師：大森 昭生 (共愛学園前橋国際大学学長)
1. 「小さくても強い大学の創り方～地学・教職・学職一体の大学改革～」
2. 質疑応答

- ・第3回 文学部・文学研究科 シラバス作成方法についてのFD研修会
(出席37人、欠席3人)
* 専任教員出席者のうち、文学研究科委員29人93.5%、ドキュメンテーション専攻委員7人100%
平成31年(令和元年)2月3日(日) 文学研究科委員会終了後 1号館第1会議室
・趣旨説明
講師：学部・文学研究科科长 加川順治
・シラバス作成についての留意点
講師：文学部教務委員長 岩間正則(日本文学教授)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

ドキュメンテーション専攻の全専任教員7人で組織した会議で、教員が担当した授業について、内容を相互に確認し、授業内容の改善を図っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期授業終了前及び後期授業終了前の各授業内にて、平成30年度より実施。今後も継続して実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの分析結果を担当教員へ通知した。今年度は、他専攻での分析結果を持ち寄り、文学研究科FD委員会にて、教育課程などの改善を検討の予定。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

- c 委員会の審議事項等

該当なし

- d その他

該当なし

② 審議状況

- a 審議した内容

該当なし

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

大学院ドキュメンテーション専攻博士前期課程は、数百年前の文献資料から電子媒体、さらには高度な情報処理を介する多様な形態の情報を等しく扱う能力を修得することを趣旨に設立されたもので、その研究・教育機会は、図書館学・書誌学・情報学を学ぶ既設の学部ドキュメンテーション学科の卒業生を対象とするだけでなく、既存の教育課程を修了した学生、さらには図書館等情報提供部門で働く社会人にも提供されることを目標としている。

開設2年目となる平成31年度（令和元年度）入試では、学部からの進学者2名、社会人（卒業生）1名の、計3名の学生が入学した。定員充足率は1.00となっており、学生募集の目標は達成している。

また、2年生のうち1名は海外の国際会議等における発表やホーナー交流基金によるアリゾナ州図書館協会との交換研修に参加する等の研究活動を積極的に行っており、今後の研究成果が期待される。社会人入学した1名は、長期履修制度により3年間の履修とすることを認めており、当専攻設置時に導入した長期履修制度が活用されている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・未定

b 公表方法

・大学ホームページにて公開

③ 認証評価を受ける計画

・令和5年度に大学基準協会の認証評価を受審する予定。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ 有 ・ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元 年 7 月 1 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人総持学園

(2) 大学名

鶴見大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒230-8501

神奈川県横浜市鶴見区鶴見2丁目1番3号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(木ガワ エイゲン) 乙川 暎元 (平成23年7月)		
学長	(木ヤマ タカシ) 大山 喬史 (平成29年4月)		
研究科長	(カガワ ジュンジ) 加川 順治 (平成29年4月)		
専攻主任	(ツノダ ヒロキ) 角田 裕之 (平成30年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
文学研究科 ドキュメンテーション専攻 (博士後期課程) 博士（文学）	文学関係	年 3	人 2	年次 人	人 6	基礎となる学部等 文学部 ドキュメンテーション学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	/		人 2 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 2 (-) [-]	人 - (-) [-]	0倍	-	
志願者数			0 (-) [-]	- (-) [-]	0 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数			0 (-) [-]	- (-) [-]	0 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数			0 (-) [-]	- (-) [-]	0 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数			0 (-) [-]	- (-) [-]	0 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A					0				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	/		0	-	0	-	
		[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
2年次			-	-	0	-	
		[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
		(-)	(-)	(-)	(-)		
3年次		-	-	-	-		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計			0		0		
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	0人	0人	平成30年度	0人	0人	
令和元年度	0人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<文学研究科ドキュメンテーション専攻（博士後期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
課題型科目群	研究指導Ⅰ 【3年毎に開講】	1・2・3通		4		6	1					
	研究指導Ⅱ 【3年毎に開講】	1・2・3通		4		6	1					
	研究指導Ⅲ 【3年毎に開講】	1・2・3通		4		6	1					
	ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ	1通		4		2						
	ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ	1通		4		3						
	ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ	1通		4		1	1					
小計(6科目)			-	0	24	0	6	1	0	0	0	0
合計(6科目)			-	0	24	0	6	1	0	0	0	0
卒業要件及び履修方法												
<p>必修選択科目4単位以上、選択科目4単位を含み、合計12単位以上を修得すること。 他大学の博士前期課程を修了した者は、1年次にドキュメンテーション特殊研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて、指導教授の指導に従って履修すること。また、学生は指導教授の授業科目を1学年ごとに1科目は履修しなければならない。</p>												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
課題型科目群	研究指導Ⅱ (未開講)	1・2・3通		4		6						1
	ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ (未開講)	1通		4		2						
	ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ (未開講)	1通		4		3						
	ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ (未開講)	1通		4		1						1
小計(4科目)			-	0	16	0	6	0	0	0	0	1
合計(4科目)			-	0	16	0	6	0	0	0	0	1
卒業要件及び履修方法												
<p>必修選択科目4単位以上、選択科目4単位を含み、合計12単位以上を修得すること。 他大学の博士前期課程を修了した者は、1年次にドキュメンテーション特殊研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて、指導教授の指導に従って履修すること。また、学生は指導教授の授業科目を1学年ごとに1科目は履修しなければならない。</p>												

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
課題型科目群	研究指導I (未開講)	1・2・3通		4		6						1
	ドキュメンテーション特殊研究I (未開講)	1通		4		2						
	ドキュメンテーション特殊研究II (未開講)	1通		4		3						
	ドキュメンテーション特殊研究III (未開講)	1通		4		1						1
	小計(4科目)	-	0	16	0	6	0	0	0	0	0	1
合計(4科目)	-	0	16	0	6	0	0	0	0	0	1	
卒業要件及び履修方法												
<p>必修選択科目4単位以上、選択科目4単位を含み、合計12単位以上を修得すること。 他大学の博士前期課程を修了した者は、1年次にドキュメンテーション特殊研究I、II、IIIについて、指導教授の指導に従って履修すること。また、学生は指導教授の授業科目を1学年ごとに1科目は履修しなければならない。</p>												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

・専任教員の就任辞退並びに兼任教員として就任の理由により、「研究指導I」「ドキュメンテーション特殊研究III」の専任教員等の配置を「准教授 久保木 秀夫」（専任）から「非常勤講師 久保木 秀夫」（兼任）に変更。

【令和元年度】

・専任教員の就任辞退並びに兼任教員として就任の理由により、「研究指導II」の専任教員等の配置を「准教授 久保木 秀夫」（専任）から「非常勤講師 久保木 秀夫」（兼任）に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
0 科目	6 科目	0 科目	6 科目	0 科目	6 科目	0 科目	6 科目	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{6} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	鶴見大学短期大学部 (必要面積8,500 m ²) と共用 借用面積： 58,871.7 m ² 借用期間： 学園の存する限り			
	校 舎 敷 地	0 m ²	76,275 m ²	0 m ²	76,275 m ²				
	運 動 場 用 地	0 m ²	29,914 m ²	0 m ²	29,914 m ²				
	小 計	0 m ²	106,189 m ²	0 m ²	106,189 m ²				
	そ の 他	0 m ²	17,751 m ²	0 m ²	17,751 m ²				
	合 計	0 m ²	123,940 m ²	0 m ²	123,940 m ²				
(2) 校 舎		専 用 24,421.9 m ² (24,421.9 m ²)	共 用 24,670.2 m ² (24,670.2 m ²)	共用する他の 学校等の専用 4,262.9 m ² (4,262.9 m ²)	計 53,355 m ² (53,355 m ²)	鶴見大学短期大学部 (必要面積6,850 m ²) と共用			
(3) 教 室 等	講 義 室	13 室	演 習 室 17 室	実験実習室 0 室	情報処理学習施設 3 室 (補助職員 2人)	語学学習施設 4 室 (補助職員 0人)	大学全体		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	文学研究科 ドキュメンテーション専攻			7 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分 842,664 図書830,710 836,627 冊 [222,649 221,765 222,767] 13,325 学術雑誌 13,280 13,300冊 [9,871 3,873] 3,919 電子ジャーナル 3,414 3,772	
	文学研究科 ドキュメンテーション専攻	72,000 [10,550] (70,829 [10,419]) (-69,958 [10,414]) (-69,000 [10,400])	1,285 [804] 1,225 [750] 1,204 [725] (1,285 [804]) (-1,225 [750]) (-1,204 [725])	500 [500] 442 [442] 421 [421] (500 [500]) (-442 [442]) (421 [421])	950 (925) (920)	パソコン共用 48台 (パソコン共用 56台) (パソコン共用 48台)	0 (0)		
	計	72,000 [10,550] (70,829 [10,419]) (-69,958 [10,414]) (-69,000 [10,400])	1,285 [804] 1,225 [750] 1,204 [725] (1,285 [804]) (-1,225 [750]) (-1,204 [725])	500 [500] 442 [442] 421 [421] (500 [500]) (-442 [442]) (421 [421])	950 (925) (920)	パソコン共用 48台 (パソコン共用 56台) (パソコン共用 48台)	0 (0)		
									[2,163 2,453 2,544] 新規購入又は契約数の増加 (元) 新規購入又は契約数の増加 (30)
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体 座席数の増加 (元)		
	7,366 m ²		669 688 席		75万 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				大学全体		
	6,182 m ²		-						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究科単位での算出不能なため、学部との合計
		教員1人当たり研究費等	429千円	429千円	図書購入費	0千円	1,500千円	1,500千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	0千円	0千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,030千円	第2年次 670千円	第3年次 670千円	第4年次 - 千円	第5年次 - 千円	第6年次 - 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要	その他の帰属収入による							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	鶴見大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
文学研究科 (博士前期課程)	2	16	-	32	-	0.43	-	平成 1年度	神奈川県横浜市 鶴見区鶴見2丁目 1番3号	
日本文学専攻 (博士前期課程)	2	5	-	10	修士 (文学)	0.40	-	平成 1年度	同上	
英米文学専攻 (博士前期課程)	2	5	-	10	修士 (文学)	0.00	-	平成 1年度	同上	
文化財学専攻 (博士前期課程)	2	3	-	6	修士 (文化財 学)	0.83	-	平成 14年度	同上	
ドキュメンテーション専攻 (博士前期課程)	2	3	-	6	修士 (文学)	0.83	-	平成 30年度	同上	
文学研究科 (博士後期課程)	3	8	-	24	-	0.12	-	平成 6年度	同上	
日本文学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文学)	0.33	-	平成 6年度	同上	
英米文学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文学)	0.00	-	平成 6年度	同上	
文化財学専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文化財 学)	0.16	-	平成 14年度	同上	
ドキュメンテーション専攻 (博士後期課程)	3	2	-	6	博士 (文学)	0.00	-	平成 30年度	同上	
歯学研究科	4	18	-	72	-	0.45	-	昭和 52年度	同上	
歯学専攻 (博士課程)	4	18	-	72	博士 (歯学)	0.45	-	昭和 52年度	同上	
大学院全体	-	42	-	128	-	-	-	-	-	

大学の名称		鶴見大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
文学部	4	300	-	1200	-	1.23	-	昭和 38年度	神奈川県横浜市 鶴見区鶴見2丁目 1番3号	
日本文学科	4	90	-	360	学士 (文学)	1.32	-	昭和 38年度	同上	
英語英米文学科	4	90	-	360	学士 (文学)	1.21	-	昭和 38年度	同上	
文化財学科	4	60	-	240	学士 (文学)	1.12	-	平成 10年度	同上	
ドキュメンテーション学科	4	60	-	240	学士 (文学)	1.23	-	平成 16年度	同上	
歯学部	6	120	-	720	-	0.76	-	昭和 45年度	同上	
歯学科	6	120	-	720	学士 (歯学)	0.76	-	昭和 45年度	同上	
大学全体	-	420	-	1920	-	-	-	-	-	
大学の名称		鶴見大学短期大学部								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍				
保育科	2	200	-	400	短期大学士 (保育学)	0.88	-	昭和 37年度	神奈川県横浜市 鶴見区鶴見2丁目 1番3号	
歯科衛生科	3	150	-	450	短期大学士 (歯科衛生学)	0.97	-	昭和 37年度	同上	
大学全体	-	350	-	850	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<文学研究科ドキュメンテーション専攻（博士後期課程）>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授 (専攻主任)	角田 裕之 (61) <平成30年4月> 博士(図書館情報学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ
専任	教授	大矢 一志 (52) <平成30年4月> 博士(学術)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	伊倉 史人 (51) <平成30年4月> 修士(文学)※
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ
専任	教授	田辺 良則 (56) <平成30年4月> 博士(情報理工学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	元木 章博 (50) <平成30年4月> 修士(教育学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	河西 由美子 (55) <平成30年4月> 博士(学際情報学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授 (専攻主任)	角田 裕之 (61) <平成30年4月> 博士(図書館情報学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ
専任	教授	大矢 一志 (52) <平成30年4月> 博士(学術)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	伊倉 史人 (51) <平成30年4月> 修士(文学)※
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ
専任	教授	田辺 良則 (56) <平成30年4月> 博士(情報理工学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	元木 章博 (50) <平成30年4月> 修士(教育学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	河西 由美子 (55) <平成30年4月> 博士(学際情報学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授 (専攻主任)	角田 裕之 (62) <平成30年4月> 博士(図書館情報学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ
専任	教授	大矢 一志 (53) <平成30年4月> 博士(学術)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	伊倉 史人 (52) <平成30年4月> 修士(文学)※
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ
専任	教授	田辺 良則 (57) <平成30年4月> 博士(情報理工学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	元木 章博 (51) <平成30年4月> 修士(教育学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ
専任	教授	河西 由美子 (56) <平成30年4月> 博士(学際情報学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	准教授	久保木 秀夫 (46) <平成30年4月> 博士(文学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 トキメントーション特殊研究Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	久保木 秀夫 (46) <平成30年4月> 博士(文学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 トキメントーション特殊研究Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	久保木 秀夫 (47) <平成30年4月> 博士(文学)
		研究指導Ⅰ【3年毎】 研究指導Ⅱ【3年毎】 研究指導Ⅲ【3年毎】 トキメントーション特殊研究Ⅲ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

・久保木秀夫准教授は他大学就任のため、専任教員就任を辞退、非常勤講師（兼任）として就任。

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
2	2	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
6	1	0	0	7	6	0	0	0	6
(6)	(0)	(0)	(0)	(6)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
7	0	0			6	0	0		
(6)	(0)	(0)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
6	0	0	0	6	6	0	0	0	6
[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[Δ1]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
6	0	0			6	0	0		
[Δ1]	[0]	[0]			[Δ1]	[0]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要受済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
67	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{6}{7} = \boxed{85.71} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	准教授	久保木 秀夫	H30.4	選択	研究指導Ⅰ【3年毎】	②	他大学に就任のため専任教員就任を辞退し、非常勤講師（兼任）として就任した。(30)			
				選択	研究指導Ⅱ【3年毎】	②				
				選択	研究指導Ⅲ【3年毎】	②				
				選択	ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ	②				
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	0	科目	選択	4	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	0	科目	計	4	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計 (F)					後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	0	科目	選択	4	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	4	科目	計	0	科目	計	4	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{7} = 14.28 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

平成30年度実施科目及び令和元年度実施科目については、専任教員就任予定者が兼任教員として就任し、引き続き同一科目を担当することで履修に支障のないように配慮した。
学生に配布している「履修要項」およびWeb上のシラパスで周知を行った。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画		
設 置 時 (平成30年)	文学部日本文学科の 入学定員超過の是正に 努めること。	留意事項	履行中	<p>平成26年度の単年度の入学定員超過率は1.01であったが、平成27年度より、前年度の入学手続予想を大きく上回る入学者が続いており、単年度の入学定員超過率はそれぞれ1.61(平成27年度)、1.41(平成28年度)、1.47(平成29年度)であった。</p> <p>平成29年12月1日付で留意事項に係る通知を受領した後の1月以降の平成30年度入試では、募集定員に対する入学定員超過率は0.70であり、前年度の1月以降の入試における募集定員に対する入学定員超過率0.79よりも減少した。</p> <p>これにより、平成30年度における単年度の入学定員超過率は1.32と、平成29年度に比べて減少したものの、平成27年度から平成30年度までの4年間における平均入学定員超過率は1.45となった。</p>	<p>社会的な需要等を考慮して、平成31年度(令和元年度)入試のあり方を十分に検討し、更なる定員超過の是正に努める。</p>
設置計画履行状況調査時 (平成30年)	鶴見大学の既設学部等(文学部日本文学科)の入学定員超過の改善に努めること。	改善意見	履行中	<p>鶴見大学文学部日本文学科の単年度の入学定員超過率はそれぞれ1.41(平成28年度)、1.47(平成29年度)、1.32(平成30年度)、1.11(平成31年度(令和元年度))であった。</p> <p>平成31年度(令和元年度)入試においては、一般入試における合格者数の抑制により、単年度の入学定員超過率は1.11に減少した。</p> <p>4年間の平均入学定員超過率は、平成30年度報告時の1.45から1.32に減少した。</p>	<p>令和2年度入試のあり方を十分に検討し、引き続き入学定員超過の改善に努める。</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<文学研究科ドキュメンテーション専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 教育内容等の改善のために組織した「文学研究科FD委員会」（別紙1）のもと、授業改善を図っている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第1回文学研究科FD委員会 平成30年5月10日 12:20～（委員 出席9人、欠席0人）・ 第2回文学研究科FD委員会 平成30年5月30日 16:30～（委員 出席9人、欠席0人） <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none">・ 第1回文学研究科FD委員会<ul style="list-style-type: none">1. 実践・情報報告会2. 今後のFD活動の件3. その他・ 第2回文学研究科FD委員会<ul style="list-style-type: none">1. 授業評価アンケートの件2. その他 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 授業方法についての講演会</p> <p>b 実施方法 実践・情報報告会の実施</p>

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・第1回 文学部・文学研究科 実践・情報報告会
(出席21人、欠席19人)

- * 専任教員出席者のうち、文学研究科委員18人58.1%、ドキュメンテーション専攻委員4人57.1%
平成30年6月14日（木）1号館402教室 16時30分～18時
講師：ケビン ミラー（英語英米文学科 准教授）
 1. Nine Things I Do (for Better or Worse)
「足りないひと味に9つの提案」
 2. アクティブ ラーニング ワークショップ
 3. 質疑応答

- ・第2回 文学部・文学研究科 実践・情報報告会
(出席24人、欠席16人)

- * 専任教員出席者のうち、文学研究科委員18人58.1%、ドキュメンテーション専攻委員5人71.4%
平成30年11月29日（木）記念館第1講堂 16時30分～18時
講師：大森 昭生（共愛学園前橋国際大学学長）
 1. 「小さくても強い大学の創り方～地学・教職・学職一体の大学改革～」
 2. 質疑応答

- ・第3回 文学部・文学研究科 シラバス作成方法についてのFD研修会
(出席37人、欠席3人)

- * 専任教員出席者のうち、文学研究科委員29人93.5%、ドキュメンテーション専攻委員7人100%
平成31年（令和元年）2月3日（日）文学研究科委員会終了後 1号館第1会議室
 - ・趣旨説明
講師：学部・文学研究科科長 加川順治
 - ・シラバス作成についての留意点
講師：文学部教務委員長 岩間正則（日本文学科教授）

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

ドキュメンテーション専攻の全専任教員7人で組織した会議で、教員が担当した授業について、内容を相互に確認し、授業内容の改善を図っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期授業終了前及び後期授業終了前の各授業内にて、平成30年度より実施。今後も継続して実施予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの分析結果を担当教員へ通知した。今年度は、他専攻での分析結果を持ち寄り、文学研究科FD委員会にて、教育課程などの改善を検討の予定。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

大学院ドキュメンテーション専攻博士後期課程は、数百年前の文献資料から電子媒体、さらには高度な情報処理を介する多様な形態の情報を等しく扱う能力を修得することを趣旨に設立されたもので、図書館において指導的な立場にたち、運営はもとより、図書館の持つ本来の情報提供機関としての今後を拓く研究者としても主導的な立場で活躍する人材ならびにドキュメントを扱う職業領域で活躍する研究・開発者の育成を目標としている。

学問領域として「ドキュメンテーション」という名称は存在せず研究キャリアとしての選択に訴求力がないことは開設の時点で想定されていたことではある。但し、多様な形態を跨いだ情報を扱える専門家は、デジタル社会における伝統文化の継承や個人の尊厳など多くの領域で必要とされている。とりわけ、これまでの情報専門家への期待度は高い。そこで、現在そのような専門職に従事または希望を持ち、かつ本学の「ドキュメンテーション」という名称のもとで扱われている事情をよく知る本学司書講習受講生、図書館司書、学校司書などに向けての情報提供を試みることで、潜在的な学生の掘り起こしに努めてゆきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・未定

b 公表方法

・大学ホームページにて公開

③ 認証評価を受ける計画

・令和5年度に大学基準協会の認証評価を受審する予定。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 ・ 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元 年 7 月 1 日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

鶴見大学大学院文学研究科FD委員会規程

平成 20 年 4 月 1 日
施行

(目的)

第 1 条 この規程は、鶴見大学大学院学則第 2 条の 2 第 3 項の規定に基づき、鶴見大学大学院文学研究科に置く FD 委員会（以下「委員会」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第 2 条 委員会は、次の各号の者をもって構成する。

- (1) 文学研究科長
- (2) 各専攻から選出された教員各 2 名
- (3) 教務事務部長
- (4) その他委員会が認めた者

2 委員長は、文学研究科長とする。

3 委員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

4 委員長は、必要と認めた場合には、委員以外の者を出席させることができる。

(役割)

第 3 条 委員会は、FD 活動が持続的に実行されるよう、次の事項について審議するとともに、各年度における FD 活動の推進機能を併せもつものとする。

- (1) FD 活動の企画立案
- (2) FD 活動の実施計画の立案
- (3) FD 活動の評価
- (4) FD 活動に関する情報の収集と提供
- (5) その他 FD 活動に必要な事項

(運営)

第 4 条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるとき又は欠けたときは、委員長が指名した者がその職務を行う。

3 委員会は、委員の過半数をもって成立し、審議事項の決議には、出席委員の過半数の賛成を必要とする。

(文学研究科委員会への報告)

第 5 条 委員長は、前条第 3 項により審議事項を決議をしたときは、文学研究科委員会への報告を行うものとする。

(事務局)

第 6 条 委員会は、教務事務部文学部教務課が所管し、事務処理を行うものとする。

(規程の改廃)

第 7 条 この規程の改廃は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。